**パラグアイ定期報告（内政・外交概況　2013年11月）**

**概要**

**（１）内政**

●３日，カルテス大統領は，国内外からの投資を保証するための新たな法案を年内にも議会へ提出する旨述べた。

●７日，労働雇用社会保障省の創設を定める法案が上院本会議において可決された。

●２０日，上院において，ボガード上院議員に対する議員特権停止が否決されたことに反感を示した市民団体等がアスンシオン市等で大規模な抗議デモを行った。

●２４日，大統領府は，カルテス大統領によるビデオメッセージを通じて，カルテス政権発足１００日の政策評価を公表した。

●２６日，左派連合（Frente Guasu）は，カルテス政権発足１００日についての記者会見を行い，カルテス政権発足１００日を厳しく評価した。

●２８日，上院にて，ボガード上院議員の議員特権停止が可決された。

**（２）外交**

●３日，当地主要紙は，政府はベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書の年内の議会への送付は検討していない旨報じた。

●７日，カルテス大統領は，１２月にベネズエラで開催予定のメルコスール首脳会議に出席しない旨述べた。

●１４日，第１回二国間閣僚会合及び第１回二国間国境地域県知事会合がブエノスアイレスで開催された。

●１８日，チョケワンカ・ボリビア外相が当国を訪問し，カルテス大統領への表敬及びロイサガ外相との会談を行った。

●２４～２６日，カルテス大統領はバチカンを公式訪問し，２５日，ローマ法王フランシスコに謁見した。

**１　内政**

**（１）カルテス政権１００日の政策評価**

＜カルテス大統領のビデオメッセージ＞

●２４日，大統領府は，カルテス大統領によるビデオメッセージを通じて，カルテス政権発足１００日の政策評価を公表した。同ビデオメッセージの主要点は以下のとおり。

　<社会政策>

－極貧層削減国家プログラム「Sembrando Oportunidades」による１２万の極貧世帯への支援を開始。

－先住民コミュニティー，貧困高齢者，女性，ストリートチルドレン向けの支援プログラムを実施。

<経済>

－公共事業に対する民間投資の促進を目的とする官民連携法の公布。

－財政支出の抑制を目的とする財政責任に関する法の公布。

－安定したインフレ率及び税収の持続的な増加の達成。

－諸外国におけるパラグアイへの投資促進活動により，米州，ヨーロッパ，アジアから２００以上の企業がパラグアイ進出を検討。

　<内政>

－国家公務員等の氏名，給与，ランクを公表。

－政権移行期に実施した会計検査により，６億米ドルの不正支出を指摘。

<外交>

－アルゼンチン及びブラジルとの二国間関係の正常化。

－域内及び国際社会における地位の向上。

●２２日，サマニエゴ・コロラド党党首は，カルテス大統領の政権運営は，海外におけるパラグアイのイメージの向上，国外からの投資の促進に繋がっているとして，政権発足１００日の成果を好意的に評価した。

●２３日，サカリアス・イルン元エステ市長（コロラド党幹部）は，現政権の前向きな姿勢，行動力を評価する一方で，政府は議会との関係を密にしていくべきである旨述べた。

●２６日，左派連合（Frente Guasu）は，カルテス政権１００日についての記者会見を行い，カルテス政権の運営方法が独裁的であり，民衆に対する圧力，社会政策予算の削減，不平等及び貧困層の拡大が著しいと厳しく評価した。

＜世論調査＞

●２４日，世論調査会社Ati Sneadは，カルテス大統領の政権運営に関する世論調査結果を発表した。

－非常に良い　 　５．１％

－良い　　　　　　　　　　　　 ２８．３％

－普通　　　　　　　　　　 ４４．２％

－悪い １６．３％

－非常に悪い 　　　　 　６．１％

●２２日，世論調査会社ICAは，カルテス政権の閣僚の支持率に関する世論調査結果を発表した。同調査結果によると，支持率が高かったのは，カルテス大統領（８０.７％），支持率が低かったのは，ソト国防相（２６.６％），ラフエンテ教育・文化相（２８.４％），ヒメネス・ガオナ公共事業通信相（２８.２％）となった。

**（２）投資保証法案**

●３日，カルテス大統領は，国内外からの投資を保証するための新たな法案（仮称：Ley de Garantia y Seguridad de Inversiones）を年内にも議会へ提出する旨述べた。

●１２日，カルテス大統領は，記者団に対し，３つの作業グループが同法案の作成を行っており，作成が完了次第，議会に提出する予定である旨述べた。

**（３）公共機関の保有する情報の公開に関する動向**

＜ボガード上院議員職権乱用問題＞

●１４日，上院本会議において，職権乱用が問題となっているボガード上院議員の議員特権の停止につき審議が行われ，投票の結果，反対２３（コロラド党員１２名，リベラル党員９名及びUNACE党員２名），賛成２２（コロラド党７名，リベラル党４名，左派連合（Frente Guasu）３名，前進する国家連合２名，進歩民主党３名，国民会合党１名）の反対多数で同上院議員の議員特権停止は否決された。

●２０日，ボガード上院議員に対する議員特権停止の否決に反感を示した市民団体等は，コスタネーラ大通りから国会前広場にかけて大規模な抗議デモを行った。同様の抗議デモは，エステ市及びエンカルナシオン市でも実施された。

●２８日，マッシ上院議員（前進する国家連合）は，ボガード上院議員の議員特権停止に関する再審議を議会に要請した。

●同日，上院本会議において，ボガード上院議員の議員特権停止が審議され，投票の結果，賛成４２票，反対２票（ワグナー議員（リベラル党），フェレイロ議員（前進する国家連合），欠席１名（フォンセカ議員（リベラル党））の賛成多数で可決された。

●３０日，検察庁は，ボガード上院議員の議員特権が停止された旨の書簡を受領し次第，ボガード議員に対する提訴手続きを続行する意向を示した。

＜当地欧米大使による検察への支持＞

●２５日，ボガード上院議員に対する議員特権停止を要請した検察官に対し，今後政治的圧力がかかる可能性があるとし，当地英国，ドイツ，EU，スペイン，フランス及び米国の大使が，検察側の立場を支持する意向を示した。これに対し，ロイサガ外相は，バチカン訪問から帰国後（本２７日），情報収集を行い，内政干渉に該当しないかを検証する旨発言した。

●２９日，本件に関し，ロイサガ外相は，当地独，米及びEU大使それぞれと会談した。同外相は，会談終了，本件は内政干渉に該当しない旨述べた。

**（４）労働・雇用社会保障省設置法案の可決**

●７日，労働雇用社会保障省の創設を定める法案が上院本会議において可決された。同法は，明年１月１日に労働雇用社会保障省を新たに創設することにより，現在の司法労働省を司法省と労働雇用社会保障省に分割することを規定している。アベド司法労働大臣は，明年１月１日の労働雇用社会保障省の創設後，司法大臣として留任し，今後，労働雇用社会保障大臣が新たに任命される予定。

**（５）公務員給与等公開法案**

●２７日，公務員の給与等の公開を義務付ける法案が下院において可決された。今後，上院に送付される予定。

**（６）インテリジェンス庁設置法案**

●２８日，ルビン下院議員（国民会合党）は，大統領府直属のインテリジェンス庁を創設する法案を作成しており，カルテス大統領が同法案を支持している旨述べた。同法案は約２週間後に下院に提出される予定。

**（７）官民連携法の公布**

●２８日，政府は，民間企業と締結する大型インフラ整備等にかかる契約は議会の承認を必要としないこと等を定めた官民連携法を公布した。

**（８）コロラド党内の動向**

●３日，アファラ副大統領は，コロラド党下院議員グループの分裂の可能性について，政治的観点からではなく，個人的な見解の相違から発生した問題である旨述べ，政府は議会との関係を強化していくために，頻繁に意見交換を実施している旨述べた。

**（９）リベラル党の動向**

●２日, アスンシオン市及びセントラル県のリベラル党員らはサギエル上院議員（リベラル党）に対し，官民連携法案に賛成票を投じた１５名のリベラル党上院議員を除名する旨要求した。同党員らは，リベラル党幹部会が同法案に反対の立場を示していたにも拘わらず，リベラル党下院議員１５名が同決定に従わなかったことが，党則違反に当たる旨主張した。

●１５日，リベラル党は，サギエル党首（上院議員）の自宅にて，幹部会合を開催し，１２月１４日に党大会が開催すること及び同党大会の際に総選挙での敗北の要因について改めて議論することを決定した。

**（１０）その他の政党の動向**

●１４日，フェレイラ下院議員（愛国党）は，自身が縁故採用を行ったとされる件に関連し，愛国党幹部が，同党からの除名を促す発言を行ったことを受け，同党に対し，離党届を提出した。これにより，愛国党は下院における唯一の議席を失った。

●１５日，キンタナ元上院議員（UNACE党，元コロラド党）は，コロラド党員に再入党した。また，１６日，UNACE党員のアリエル・オビエド下院議員及びファビオラ・オビエド下院議員もコロラド党に再入党した。

**２　外交**

**（１）パラグアイのメルコスール復帰を巡る動向**

●１日，サギエル上院議員（リベラル党）は，１２月のメルコスール首脳会合（於：ベネズエラ）にカルテス大統領が出席した場合，議会がベネズエラのメルコスール加盟を正式に承認していないことから，憲法に規定される「職務の不適切な遂行」に該当し，弾劾裁判の対象となる可能性がある旨発言した。

●７日，カルテス大統領は，１２月にベネズエラで開催予定のメルコスール首脳会議に出席しない旨述べた。

●１３日，マドゥーロ・ベネズエラ大統領は，１２月に予定されていたメルコスール首脳会合を明年１月１７日に延期する旨発表した。

●２４日，サギエル上院議員（リベラル党）は，政府が現時点でベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書を議会に送付した場合，年内に審議が議会で行われる可能性は低い旨述べた。議会は１２月２１日より休会となり，また，上院規則によれば，法案提出は，原則，休会の３０日前に行われなければならないとされている。

**（２）アルゼンチンとの二国間閣僚会合等の開催**

●１４日，９月１０日の両国首脳会談のフォローアップの一環として，第１回二国間閣僚会合及び第１回二国間国境地域県知事会合がブエノスアイレスで開催された。

●同閣僚会合には，パラグアイ側からはロイサガ外相をはじめとする主要閣僚（ロハス蔵相を除く）が出席し，アルゼンチン側からはアベル・メディーナ官房長官，ティメルマン外相等が出席した。

●同会合後に署名された共同声明では，両国間の統合を具体化するために，両国を結ぶインフラ整備，陸路及び河川流通網の連結，国境移動の効率化等の重要性が強調された。

●なお，両国は，来年の然るべき時期に，アスンシオンにおいて，次回の二国間閣僚会合及び二国間国境地域県知事会合を実施することで合意した。

**（３）カルテス大統領とフェルナンデス・アルゼンチン大統領との電話会談**

●２９日，ドゥアルテ駐アルゼンチン大使は，カルテス大統領がフェルナンデス亜大統領と電話で会談した旨明らかにした。アルゼンチン政府筋によると，フェルナンデス亜大統領は，カルテス大統領に対し，メルコスールへの早期復帰を要請した。

**（４）パラグアイ・チリ統合共同委員会**

●２０日，第８回パラグアイ・チリ統合共同委員会（Comision Mixta de Integracion Paraguay-Chile）が外務省において行われ，両国間を結ぶインフラ整備等の他，チリ・アントファガスタ港のフリーゾーンの使用等について協議が行われた。

**（５）パラグイア・ブラジル関係**

●１２日，大統領府において，６日に当地に着任したジョゼ・マルティンス新当地ブラジル大使がカルテス大統領に信任状を捧呈した。２０１２年６月の議会におけるルゴ大統領弾劾後，当地ブラジル大使は本国に召還されたが，今般，新当地ブラジル大使がカルテス大統領に信任状を捧呈したことにより，両国の外交関係が正常化した。

●同日，カセレス外務副大臣（政務担当）は大統領府において，次期駐ブラジル大使として宣誓を行った。カセレス大使は近くブラジルに赴任する予定。

**（６）チョケワンカ・ボリビア外相の当国訪問**

●１８日，チョケワンカ・ボリビア外相が当国を訪問し，カルテス大統領への表敬及びロイサガ外相との会談を行った。

●チョケワンカ外相は，両国関係の正常化が今次訪問の目的であり，２０１４年第１四半期に，両国の外相及び国防相間の２＋２対話をアスンシオンにおいて開催する予定である旨述べた。また，同外相は，パラグアイ石油公社とボリビア炭化水素公社との間のボリビア産LPガスのパラグアイへの輸出にかかる交渉が最終段階にある旨述べた。

**（７）カルテス大統領のバチカン公式訪問**

●２４～２６日，カルテス大統領はバチカンを公式訪問し，２５日，ローマ法王フランシスコに謁見した。同謁見では，貧困対策、家族の結束，不平等を解決する取り組み等について意見交換を行った。

●カルテス大統領は，謁見後，記者団に対し，法王フランシスコにパラグアイへの招待を行ったと述べるとともに，同法王から，南米を初訪問する際にパラグアイ訪問を日程に組み込む努力をするとの回答を受けた旨述べた。

●また，カルテス大統領は，法王フランシスコが貧困により疎外された恵まれない人々への対応が優先されなければならないと述べるとともに，三国戦争の際に自己犠牲を払い，戦後の復興及び人口の回復に寄与したパラグアイの女性達を賞賛した旨述べた。

**（８）ルゴ元大統領のＵＮＡＳＵＲ事務局長就任の可能性**

**●**６日，当地主要紙は，情報筋によるとし，ルゴ元大統領が，ＡＬＢＡ諸国（ベネズエラ，エクアドル、ボリビア）からＵＮＡＳＵＲ事務局長就任にかかる提案を受け，事務局長就任に関心を示しているとともに，同元大統領は，事務局長就任に対してのカルテス大統領からの支持取り付けのための働きかけを行っている旨報じた。

●１４日，左派連合は，ルゴ元大統領は左派連合のリーダー的存在であることから，現時点でUNASUR事務局長に就任することは望ましくないとし，ルゴ元大統領のUNASUR事務局長就任の可能性を否定した。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●１５日，フンメス枢機卿（法王庁聖職者省名誉長官）（カルテス大統領表敬）

●１８日，チョケワンカ・ボリビア外相（カルテス大統領表敬等）

●１９日，チャンドラ国際連合事務次長（カルテス大統領表敬等）

**（２）往訪**

●７～８日，レイテ商工相，ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ訪問（ﾊﾟﾗｸﾞｱｲ･ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ･ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌｫｰﾗﾑ出席）

●１４日，主要閣僚（ロハス蔵相を除く），ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ訪問（第１回二国間閣僚会合出席）

●８～１０日，ロハス外相，日本訪問（日本-ラ米ビジネスフォーラム出席）

●２０～２２日，レイテ商工相，ブラジル訪問（投資促進ミッション）

●２４～２６日，カルテス大統領，バチカン訪問（ローマ法王フランシスコ謁見等）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（了）